

て於に名の園稚幼民國

絡連きし正のへ校學民國(五)

三 惣 橋 倉

國民學校に於ては躰が大に重んぜられてゐる。その細目的内容はいろいろであるが、要するに、生活の態度を所作が、それ／＼の正しい慣性に仕上げられることである。今までの小學校が放縱であつたといふ譯ではないが、或は知能の發達に重きが偏せられて、生活の躰けられ方がつい足りなかつたり、或は特殊の作法は教へられても、生活そのものゝ訓練までは届いてゐなかつたり、或は時には、教育的自申主義の誤謬に於て、行動が亂雜に放任せられたりさへした。それに對し、兒童の生活の態度所作が、正しい制約の下に整へられやうとするのである。その必要なること言ふまでもない。しかも、躰は要するに生活が正しく慣性づけられることであるから、一日の内的一部分だけである學校のみでよくし得るものでない。

そこで、國民學校に於ては、此點特に家庭との連絡協力を強調してゐる。

ところが茲に最も大切なことは、かうした、生活の慣性づけが、就學と共に突如として開始せられることの不自然さである。その爲に、躰けの方法上に無理が伴はざるを得なかつたり、更に、躰けが眞實にその子の生活のものさならぬで、特殊的形式であつたり、生活を眞に中味さしない型であつたりするやうなことも起る。少くも、教師の勞を、殊に兒童の勞を費消させることが多い。すなはち、國民學校の躰の尊重に對應して、就學前の躰けの正しい留意が特に必要になる。そして家庭以外、學校以前の正しい躰けの爲に、幼稚園に於ける躰の有效が強調せられずにはゐないのである。勿論、學校への連絡に於てのみ、就學前の躰が、必要な譯ではないが、その逆に、適當の躰けなしに直に學校に入ることに比すべくもない。但し、こゝにいふ意味は、必ずしも、就學前から就學後と同じ程度の躰を完成させようといふのではない。寧ろ、躰けの個々の點よりも躰けといふことをされてゐるといふことに、大きな價值があるのである。又、その躰けは、必ずしも、生活の形のみのことではない。心の躰、その躰けられた心からだん／＼形に出る躰けといふこともある。しかも、いづれにせよ、日本國民としての躰けであり、その鍊成の一要件としてののみ、就學前の躰もあるのである。すなはち國民學校の躰と同じ本質をもつところの國民幼稚園の躰けである。